（様式２）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	抗がん薬曝露予防を目的とした看護の現状と課題 −日常的な環境清掃に焦点を当てて−		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学部	助教	大松　尚登
分担者	看護学部	教授	比嘉　肖江

研究結果の概要

【背景・目的】

抗がん薬には治療効果とともに発がん性や催奇形性などがあるため，医療従事者や患者の家族といった治療を受ける患者以外への曝露を避ける必要がある。これまでに，がん薬物療法に従事する看護師の尿から抗がん薬であるシクロフォスファミドが検出された例も報告されており，日常的な看護業務において抗がん薬に曝露する可能性が示唆されている。このような背景から，抗がん薬に対する職業性曝露対策の必要性が言われるようになった。

2015 年にがん薬物療法における職業性曝露対策ガイドラインが公表され，曝露対策は抗がん薬の調製時のみではなく，看護師が日常的に行う投与管理，患者の排泄物ケア，廃棄処理においても重要であることが示されている。一方で，曝露予防を目的とした日常的な環境清掃については，ガイドラインに記載があるものの具体的方法は示されておらず，臨床での実践に関するエビデンスは十分得られていない。本研究において，抗がん薬曝露予防を目的とした日常的な環境清掃の現状と課題について明らかにし，曝露予防を目的とした環境清掃法の確立につなげていく。

【方法】

本研究は無記名自記式質問紙を使用した実態調査研究である。対象は富山県の病院で，外来化学療法を施行しているセンターや外来，ならびに日常的に化学療法が施行されている病棟に勤務する看護師とした。調査内容は，看護師経験年数，がん薬物療法看護経験年数などの基本属性，「がん薬物療法における職業性曝露対策ガイドライン」に記載されている一般的知識の理解状況，個人防護具の装着などの一般的な曝露対策の実施状況，環境整備の目的と実施状況（ベッドサイド・共用トイレの清拭部位や使用物品）などとした。得られた結果について，量的・質的に分析する。

【結果】

富山県内 20 ヶ所の病院の看護部長に調査依頼を行い，承諾が得られた 19 ヶ所の病院に，計 177 部の調査用紙を郵送した結果，82 名の看護師から回答が得られた。現在，結果について集計・分析を進めている。

今後の展開

今後は結果を分析し，学術学会や学術雑誌での公表を行っていく予定である。本研究は第一段階として富山県内を対象に予備的な調査を行ったが，今後は規模を拡大した全国での調査を予定している。曝露予防を目的とした日常的な環境清掃の現状から課題を明らかにし，曝露予防を目的とした環境清掃法の確立につなげていく。